

# 山梨県立あさひワークホーム

## 平成28年度 事業報告

協会が策定した「第三次中期経営計画」（平成26年度～28年度）に基づき、実施事業である就労移行支援、就労継続支援及び生活介護支援において、より質の高いサービスを提供した。

就労移行支援事業は、利用者が作業を通し社会人としての職場マナーや心構えを学ぶとともに就労に対する意欲の向上を図る支援を行った。また、ハローワークや就業・支援センターとの連携のもと企業等の協力を得て、利用者に施設外実習を提供した。その結果、1人が一般企業に就職し、1人が就労継続A型施設に移行した。一般企業への就職者に対しては職場定着支援を行っている。

就労継続支援事業は、山梨県の月平均工賃支給額の15,000円を目標に生産活動を行ってきたが、単価の安い下請け作業からの脱却が図れず、昨年度の生産額を上回るものの前述した県平均工賃には及ばなかった。今後も単価の高い効率的な作業種目の開拓や新たな自主製品の開発等により目標達成に向け努力する。

生活介護支援事業は、日中活動として生産活動の他、菜園での季節野菜の栽培や運動訓練を兼ねた外出等により、四季の移り変わりを体感していただいた。衛生面では建物内の除菌清掃等を毎日実施することで感染症対策に万全を期した。また、週2回の作業療法士による作業療法により、日常生活において車いす利用の利用者へは、歩行訓練の強化等、更なる訓練サービスの充実を図った。一方、日常生活の中では、利用者間の障害の多様化による対人関係等のトラブルが増えているため、常に時間を割いて、個々への面談時間を設け、傾聴や受容等の支援を行い、当該利用者の心の安定を図った。同時に、個人情報保護、虐待防止についての職員研修会を開催してコンプライアンスの徹底を図り、利用者の人権や主体性を大切にしたい質の高いサービスの提供に努めた。

施設入所事業、短期入所事業は、利用者が安心して安全で快適な施設生活を送るための支援に努めるとともに、地域で暮らす障害者やその家族からのニーズに対し可能な限り応えるよう配慮した。

施設経営面では、老朽化に伴う施設設備の更新・修繕に関する支出が年々増額しているが、利用者の確保や稼働日数を増やす等して、収入の向上に努めた。また、ホームページにより事業所の事業実施状況等を公表するとともに、ホームページ内のブログによって、日々の行事や作業及び生活状況を適宜更新して広報活動の充実に努め、安定した経営に繋げた。

協会が策定した「第三次中期経営計画」（平成26年度～平成28年度）の最終年となり、3年間の検証を踏まえて、新たに「第四次中期経営計画」（平成29年度～平成33年度）を策定した。

以下この一年の施設運営の概要を報告する。

就労事業支援	就労移行支援	利用者の就労ニーズに応えるため、施設内外での作業訓練と企業見学及び企業での実習を実施した。更に、ハローワークや障害者就業センター及び県就業支援センター等の関係機関と連携して就職に向けた支援に取り組んだ結果、 <u>1人の利用者が就職し、1人が就労継続A型に移行した。</u>
	就労継続B型支援	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 利用者の適性を把握したうえで作業種目を決定し、作業の習熟度を高めるとともに、作業の入荷状況に合わせた人員配置等を行い、作業効率の向上に努めた。<u>自主製品（図面袋等）については、ホームページの活用により県内外企業からの利用顧客数も増えている。また、協力企業との信頼関係を保ちつつ、作業内容や単価交渉を行い、徐々にではあるが生産額を増やすことができた。</u>（前年比+315,041円）</li><li>○ 工賃の算定は、工賃会議において、個々の作業状況に応じた業績点の見直しを行い適正な評価に努めた。また、就労継続B型事業における工賃は、平均時給で前年度を18円上回り、地域での自立した生活の糧となるよう配慮して支給した。</li></ul> <p style="text-align: right;">【別紙① 就労支援実施状況】</p>

生活介護事業支援	日常生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別支援計画に基づき、個々の目標に向けた支援を実施した。</li> <li>○ 生産活動を通して生き甲斐としての労働を提供し、その対価として工賃を支給した。</li> <li>○ カラオケや創作等各種のプログラムを計画し、余暇活動の充実を図るとともに歩行訓練等の個別訓練もメニュー化して行った。また、9月に開催された障害者文化展に作品を出品した。</li> <li>○ 機能低下や二次障害防止のため、毎日の体操や週に2回（火・金）作業療法士による個別訓練や集団リハ等を実施した。</li> <li>○ 定期的な所外活動（買い物等）による外出、日帰り旅行等を実施し、潤いのある生活を提供した。</li> <li>○ 施設敷地内にミニ菜園を作り、ミニトマト、キュウリ、ジャガイモ、サツマイモ、スイカ等を栽培、収穫することができた。また収穫した野菜を使い料理実習を行った。</li> <li>○ <u>新たに寝具類（掛け布団、敷布団、枕）を購入し、毎週木曜日にシーツ交換を行うことで、清潔で快適な生活が送れるよう支援した。</u></li> </ul> <p style="text-align: center;">【別紙② 日中活動支援状況／統計】</p>
	社会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者が積極的に社会活動に参加できるよう、招待や案内の情報提供を月一回開催の全体集会や掲示板等で積極的に行った。</li> <li>○ 活動の一環として、買い物等の外出支援、障害者文化展の見学を行った。</li> <li>○ <u>近隣の乗馬センターにて乗馬体験を行い、動物とふれあう機会を提供した。</u></li> </ul>
	家族との交流	<p>福祉村まつり、バーベキュー会、納涼会、年末懇親会など施設の諸行事にご家族にも参加していただき利用者との交流を図った。</p> <p>また、交流の少ない家族については、電話や通知などにより利用者の近況を報告した。</p> <p>年度始めにはご家族向けに前年度の事業の実施報告会を開催し、情報交換及び個別面談等を実施するとともに、家族間並びに職員との交流も図った。</p>
	地域生活移行支援	<p>施設入所者の地域移行を推進するため、本人及び家族の意向を考慮しながら、利用者の地域移行への意欲が更に高まるよう取り組んだが、金銭問題や単身生活への不安、家族の支援不足等の理由により地域移行には至らなかった。</p>
利用者の健康管理／安全管理	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日頃の健康状態、受診、検診等を把握し、健康の保持、増進に努めた。</li> <li>○ <u>感染予防対策を強化するため、汚染防止用具を3カ所に増設した。</u></li> <li>○ <u>入所者への感染を未然に防ぐため、通所者の送迎時に検温を行い、ウイルス等の持ち込みを防止した。</u></li> <li>○ 利用者にインフルエンザ、ノロウイルスの感染は見られなかった。</li> <li>○ 食事制限のある方は、おやつの管理を行い健康の保持、増進に努めた。</li> <li>○ 日常の中で良肢位による立位、下肢の筋力アップを図り歩行が可能になるよう支援を継続した。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【別紙③ 医務実施状況】</p>
	食事支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楽しくバランスよく食べる」を給食管理の基本として、健康生活の源となる食事支援に努めた。</li> <li>○ 疾病及び障害の程度や年齢など、身体状況の個人差が大きいとため、各個人に適した食事の提供が行えるよう配慮した。また、食事摂取が速い利用者も見られるため、そしゃく等に気をつけ、ゆっくり摂取するよう声かけ支援を行った。</li> <li>○ 毎食、肉や魚、パンや麺等好みの料理が選べるセレクトメニューを実施した。また、バーベキュー、まぐろまつり、にぎり寿司を行ったり、季節の鍋料理なども提供し、「食べよう」という意欲に繋げることができた。</li> <li>○ 年4回開催した給食委員会には、利用者と調理員も参加し、日々の食事内容や環境についての意見や要望が出され、給食に反映した。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【別紙④ 給食実施状況】</p>

利用者の健康管理／安全管理	災害時の安全対策	年間防災訓練計画に基づき、夜間訓練を含め年4回の訓練と専門業者による防災器具の法定点検の他、危険箇所等の自主点検も毎月実施し、職員及び利用者の防災意識を高めるとともに、安全で迅速な避難体制の確立を図った。		
		訓練実施状況		
		実施日	訓練内容	備考
		6月17日	防災訓練（火災）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他
		9月6日	総合防災訓練（地震・火災）	非常放送・地震防護措置・避難誘導・消火・救護炊出・施設間の連絡、応援訓練他
		12月15日	防災訓練（夜間火災）	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他
管理運営	施設の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設ホームページの更新と活用により、施設利用を促進させると同時に、施設事業の実施状況をリアルタイムに発信した。</li> <li>○ 利用契約の際、利用者及び家族に対し当該事業の基本方針及び支援内容をわかりやすく説明するとともに、目標達成に向けた計画に基づいた支援を行った。</li> <li>○ 利用者の健康管理及び身体機能の維持・向上を目的として、看護師と作業療法士を中心に支援の充実に努めた。</li> <li>○ 施設事業の内容について、全体集会やオリエンテーション等で利用者への説明を行い、利用者の意向が反映できるよう支援を行った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【別紙⑤ 事業実施状況】</p>		
	苦情解決体制	<p>利用者が施設で提供している福祉サービスに対し苦情はないか、また苦情の申し出方法についての認識度や環境等が整っているか常に把握し、提供する福祉サービスの質向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 苦情受付件数（総数） 1件（利用者に対する苦情）</li> <li>○ 苦情の内容（ア）と解決状況（イ）  <u>ア：親しくしている利用者との金銭の絡むやりとりがあり、違和感を覚えることが多くなった。返してもらいたいものもある。</u>  <u>イ：話をして返してもらった。今後は冷静になり少し距離をおいてお金の使い方も改善し自分の身は自分で守る行動をとるように助言し、納得された。</u></li> <li>○ 第三者委員への報告  平成28年5月20日（平成27年度分）に第三者委員会を開催した。</li> </ul>		

管理運営	職員研修	<p>福祉サービスの基盤である人材の育成と確保、さらには社会福祉法人の経営能力の向上が重要であることから、必要な研修会等に積極的に参加した。</p> <p>また、研修参加者からの復命研修により、職員間での情報共有とスキルアップに努めた。</p> <p>外部研修</p>			
		開催期間	研修会名	場所	参加者
		4月14日	峡北所管内栄養士スキルアップ研修	韮崎市	栄養士
		5月13日	山梨県看護大会	甲府市	指導幹
		5月16日	山梨県障害福祉従事者基礎研修	甲府市	支援員
		6月23日	社会福祉従事者傾聴能力向上研修	甲府市	支援員
		7月2日.3日	社会福祉士実習指導者講習会	甲府市	支援員
		7月21日	社会福祉従事者に必要なプラン設計と自己管理研修	甲府市	支援員
		8月2日	福祉サービス苦情解決事業研修	甲府市	所長
		8月2日.3日.10日	就業支援基礎研修	甲府市	支援員
		8月10日	0JTリーダー研修	甲府市	支援員
		8月23日	給食施設関係者研修会	韮崎市	栄養士
		8月31日	社会福祉施設現任職員研修	甲府市	支援員
		9月2日	虐待防止講演会	韮崎市	所長
		9月8日	モチベーションアップ研修	甲府市	支援員
		9月20日	安全運転管理者講習	甲府市	管理課長
		10月14日	腰痛予防対策講習会	甲府市	支援員
		11月7日	感染症・食中毒対策研修会	韮崎市	支援員
		11月9日	社会福祉施設主任指導員研修	甲府市	就労課長補佐
		11月21日	安全運転講話	甲府市	管理課長
		11月21日	精神障害者地域移行支援関係者研修	甲府市	支援員
		11月22日	社会福祉施設主任介護職員研修	甲府市	支援員
		11月18日	知的障害者福祉業務従事者研修	甲府市	支援員
		1月10日.11日	障害者虐待防止リーダー研修会	東京	生活課長
1月13日	障害福祉事業所のためのBCP講座	大阪	所長		
所内研修					
3月28日	薬の内容及びてんかん発作時の対応	施設内	全職員		
管理運営	個人情報保護	<p>協会の定める個人情報保護規程並びに個人情報保護方針に基づく「個人情報保護マニュアル」の周知・徹底を促し、利用者個人との接し方から外部来所者との関わりまで、職員の意識を高める取り組みを行った。また、利用者の個人情報を取り扱うことに対して、同意を得るための同意書確認を実施した。</p>			
		<p>施設の保守管理に万全を期するとともに、快適な環境を維持し利用者サービスの向上を図った。また、老朽化の著しい設備・備品等については、次のとおり必要な改善を行い、適切な施設管理に努めた。</p>			
管理運営	施設管理	①	Y-4居室床張り替え	平成28年 6月 6日	
		②	トヨタハイエースGL(10人乗り)購入	平成28年 6月15日	
		③	浴槽濾過循環ポンプ修理	平成28年 6月16日	
		④	Wブロックエアコン室外機修理	平成28年 7月 6日	
		⑤	Hブロックエアコン修理	平成28年 7月12日	
		⑥	Aブロックエアコン更新(県予算)	平成28年 7月26日	
		⑦	浴室ガラス修理	平成28年 8月 4日	
		⑧	前庭及び西側に防犯灯設置	平成28年 8月26日	
		⑨	玄関エントランスアプローチ改修	平成28年 8月31日	
		⑩	第二作業棟火災報知器設置	平成28年 9月 4日	
		⑪	障害者用駐車場改修	平成28年10月 4日	
		⑫	居室サッシ設置(県予算)	平成29年 1月25日	
		⑬	Yブロック自動ドア修理	平成29年 2月 1日	
		⑭	食堂テレビ購入(70V)	平成29年 3月 9日	
		⑮	居間・通所休憩室ソファーとテーブル購入	平成29年 3月13日	
		⑯	防犯カメラ設置(県予算)	平成29年 3月16日	
		⑰	居室・居間・トイレカーテン取替	平成29年 3月21日	
		⑱	非常通報装置設置(県予算)	平成29年 3月30日	

地域支援	短期入所	<p>定期的な利用や比較的長期の利用もあり、12人の利用者が延べ966日利用いただき利用者個々の利用ニーズに応えることができた。特に休日の利用希望者が多く調整することもあった。</p> <p>支援にあたっては、利用者の障害や支援状況に応じて利用する居室の場所等を配慮し、安心して生活が送れるように努めた。</p>			
	地域交流	<p>地域の構成員として、利用者が地域の方々と好ましい関係をつくり、社会参加の促進を図るには、施設の機能を地域に活用していただく等、地域との連携が必要なことから次の事業を実施した。</p> <p>① 納涼会（盆踊り会）に地元老人会・婦人会を招待し交流を図った</p> <p>② サッカーJ1リーグ招待観戦</p> <p>③ 県ボランティア協会が主催するイベント等に参加</p>			
	峡北地域 自立支援協議会	<p>障害者地域自立支援協議会事業所連絡会に所属し、事業所間での問題点や福祉を取り巻く制度についての勉強会等に参加した。</p>			
	実習生の 受入れ	<p>福祉人材養成を目的とした大学等からの社会福祉援助技術現場実習や支援学校生の職場実習先として幅広く受入れ、福祉人材の育成と障害児・者の進路支援機関として積極的に協力した。</p>			
		実習依頼先	人数	期間	目的
		わかば支援学校	3人	5/12～5/27	現場(職場)実習
帝京学園短期大学		1人	8/10～8/30	資格取得実習	
帝京学園短期大学		1人	8/19～9/6	資格取得実習	
身延山大学		1人	9/5～9/14	資格取得実習	
わかば支援学校		3人	9/13～9/30	現場(職場)実習	
帝京学園短期大学		1人	12/7～12/26	資格取得実習	
帝京学園短期大学		2人	2/20～3/9	資格取得実習	
受入者数 計12人					
ボランティア 等の受入れ	<p>閉鎖的になりがちな入所施設においてボランティアの受入は、利用者と地域との相互交流と連携を深める貴重な機会であり、生活のアクセントとしても重要なイベントであることから、積極的にボランティアの受入を行った。</p> <p style="text-align: center;">【別紙⑥ ボランティア/見学者受入状況】</p>				